

5/3 (土・祝) 西京極総合運動公園補助競技場

第1試合 関西大 vs 阪南大

今リーグここまで4勝1分の関西大と、2勝3分の阪南大。互いに負けなしの両校。勝ち点3を奪うのはどちらか。関西大の島岡コーチは「阪南大は目の色を変えてくる。勝つのは簡単じゃない」と試合前に気合いを入れた。

前半からボールを支配したのは阪南大。素早いプレッシャーで関西大のボールキープを許さない。すると37分、左サイドからグラウンダーのパスを受けたMF⑧中濱雅之がシュート。阪南大が先制点を奪った。関西大は自分たちのリズムでサッカーを展開することができず、得意のパスサッカーを活かせない。

後半10分にはゴール前で関西大の選手がボールをクリアし損ね、今日の試合が今リーグ初先発となった阪南大のFW⑬西田剛がそのままシュート。2-0と関西大を引き離した。

「運動量が少なかった」と関西大のMF 21 大屋翼主将は振り返る。阪南大は前線からの守備が冴え、最後まで集中を切らさなかったのはさすが。関西大が今リーグ初黒星を喫し、逆に阪南大が約4年半ぶりの3連勝を果たした。

(文: 関大スポーツ編集局 山本真由美)

関西大 0 { 0-1 } 2 阪南大

得点(アシスト)者
37分 中濱(西田)
55分 西田(野田)

第2試合 大院大 vs 近畿大

大院大 2 { 0-2 } 3 近畿大

得点(アシスト)者
76分 小野
88分 小野(加藤)

得点(アシスト)者
6分 山口(枝本)
13分 枝本
63分 高石

前節まで1勝4敗の最下位に苦しむ近畿大。しかし「内容的には悪くなかった。チームの状態は良い」と田中幸雄監督が語るように、この日は6分に近畿大DF⑤山口惇也、13分にFW⑦枝本雄一郎がゴールを決め、2試合振りの勝利に向け幸先の良い得点を上げる。

一方の大院大は、前節まで2勝2敗とまずまずの戦いを見せてきたが、この日は前半早々の失点で集中力が切れたのか、後半18分には大院大GK①古矢光宏が近畿大GK①高石裕介のゴールキックをまさかの落球でゴールにし、3失点目を許してしまう。これで3-0となり勝負は決まったかと思われたが、3得点した安心感から近畿大が逆に集中力を切れ、徐々に大院大にペースを握られてしまう。さらに後半31分には、近畿大DF 27 藤本雅也が相手の背中を押してこの日2枚目のイエローカード。一人少なくなった近畿大は、大院大FW 60 小野真国に31分、43分と連続で得点を決められ、大院大の追い上げを受ける。しかし近畿大がなんとかその追い上げを振り切り試合は終了。大院大はあと一歩及ばず敗退。近畿大が勝ち点3を獲得し一気に8位まで順位を上げた。

(文: 近大スポーツ編集部 藤本 康寛)

5/3 (土・祝) 鶴見緑地球技場

第1試合 びわこ大 vs 大教大

びわこ大はエース・FW⑬平野甲斐が絶好調だ。前節からPKを除く2ゴール4アシストと全得点に絡み、攻撃の原動力となっている。先制点は32分。MF⑨瀬古朋広から放たれたパスに、平野が飛び出しペナルティエリアに進入。DFをかわし右足を振りぬぎ、鮮やかな先制点を決めた。その3分後には、平野がゴール前に出したパスを瀬古があわせ、2-0と引き離れた。後半に入ると、大教大に押される場面もあったが、17分、FKを平野がヘディングで落とし、さらに瀬古が頭で合わせた。27分にはFW 25 篠部拓真がゲットしたPKを自ら決め、大教大に4-0と完勝。4連勝を決めたびわこ大は首位・同大と勝ち点で並んだ。しかし、松田保監督は厳しい表情を浮かべ「無失点なのはいいが、4-0は結果論。内容がよくない。」と理想とするサッカーを追い求める。

一方、前節同大を苦しめた大教大は、びわこ大の攻撃陣に圧倒されながらも、後半は主将MF⑦仲宗根和を中心に攻撃を展開。後半15分には、MF⑩三好洋央がびわこ大DFをかわしてシュートを打ち込み。その後も攻守ともに最後まで粘り強く戦い続けるも、ゴールのフォローが少なく、得点にまで結びつかなかった。「今日のような大量失点の試合は難しい。一点勝負に持ち込まなければ」と入口豊監督。昇格組にとって、我慢の春になりそうだ。

(文: フリーライター 久住 真穂)

びわこ大 4 { 2-0 } 0 大教大

得点(アシスト)者
32分 平野(瀬古)
35分 瀬古(平野)
62分 瀬古(平野)
72分 篠部

第2試合 関学大 vs 立命大

関学大 3 { 1-1 } 1 立命大

得点(アシスト)者
41分 志田野(出口)
70分 阿部
78分 青戸

得点(アシスト)者
21分 佐原(有田)

ここまでの総得点数は3。前節はびわこ大に0-3で敗れ、関学は得点力不足に苦しんでいた。対する立命大は、前節桃山に初勝利をあげ、この連戦で勢いに乗りたいところだ。スピードの関学大、つなぐ立命大。両者の対決は関学大に軍配があがった。

前半は、立命大らしさが目立った。中盤で早くパスつなぎ、サイドバックも果敢に攻撃参加。「自分たちのサッカーができた」(立命大・DF⑥長谷川卓登)の言葉通り、立ち上がりから課題を持つ関学大を圧倒し、21分にはMF⑩有田祐大のパスをFW 33 佐原啓泰があわせ、公式戦初得点で先制。しかし伝統のつなぐサッカーもここまで。前半終了間際、関学大はコーナーキックからDF②志田野雄一朗がヘディングで決め、3試合振りの得点で同点に追いついた。

後半に入ると関学大は息を吹き返したように、スピードあるドリブルで攻撃を仕掛ける。守備の要・主将DF⑤畑尚行を出場停止で欠く立命大の守備陣のクリアミスで、25分、MF 28 阿部浩之が逃さずゴール隅に放ったシュートが決まり、2-1とリードを奪う。33分にはMF⑤青戸謙典がドリブルで中央突破。立命大DFをつかれながらも強引にシュートを打ち、3点目をあげた。両チームのGKがスーパーセーブを見せる場面もあったが、最後まで走りきる強さをみせた関学大が3-1と立命大に逆転勝利を収め、イレブンには喜びを爆発させた。

(文: フリーライター 久住 真穂)

5/3 (土・祝) 山城総合運動公園太陽が丘球技場B

第1試合 同大 vs 姫獨大

同大の勢いは、ここでも止まらなかった。「あれで相手にガツンといけた」(同大・望月慎之監督)。試合開始早々にDF⑤永戸康士がCKから先制点を挙げ、1-0で前半を折り返す。後半開始早々にもMF 29 徳丸敬紘がワンツーから抜け出して追加点。相手の反撃への勢いをそぐと、トドメは後半33分のDF⑩安川有のゴール。「申し分ない」(望月監督)点の取り方で姫獨大を一蹴した。

顕著だったのは、攻め急ぐ姫獨大と、攻め切る同大という構図。カウンターでワンチャンスを狙いに行く姫獨大だが、技術力がない分「逆カウンター」を恐れて最後まで攻め切れない。対して同大は、何度も攻撃をボランチから組み立て直し、最適解を弾き出す。その結果が、3-0というスコアだ。

これで同大は5勝1敗。「守備が安定してる。全員守備には自信がある」(望月監督)。ついに首位を奪還した同大。その勢いはまだまだ止まりそうにない。

(文:UNN関西学生報道連盟 深江 友樹)

同大 3 { 1-0 } 0 姫獨大
2-0

得点(アシスト)者
4分 永戸(森本)
48分 徳丸(大森)
78分 安川(楠神)

第2試合 桃山大 vs 京産大

桃山大 8 { 4-1 } 1 京産大
4-0

得点(アシスト)者	得点(アシスト)者
3分 辻(北井)	18分 馬場(市川)
20分 辻(市川)	
23分 渡部	
44分 渡部(船津)	
55分 船津(渡部)	
60分 辻(渡部)	
65分 西田	
83分 武田	

今一つ調子が上がらず、苦しい戦いが続く両チーム。しかし、「内容は悪くなかったので、あまりメンバーはいじらなかつた」(桃山大・松本直也監督)という桃山大と、1年生3人をスタメン起用するなど大幅にメンバーを変更した京産大。真逆のアプローチで試合に挑んだ。

試合は開始直後から動く。3分に桃山大がFW⑩辻和帆のゴールで先制。対する京産大も18分、DF⑥市川恭平のフリーキックにDF⑦馬場悠企が合わせて同点とする。しかし、直後の20分には辻が、23分にはFW⑬渡部泰征が決め、試合は一方向的な桃山大ペースへ。44分にも渡部が決め、前半終了時点で4-1。早くもゲームを決定付けてしまった。

後半も桃山大の勢いは止まらず、気持ちの切れた京産大のゴールに面白いようにボールが吸い込まれる。後半10分にはMF⑧船津卓也が右サイドからの渡部のクロスを頭で合わせ、15分には辻がハットトリックを達成。18分にはこの日2ゴールの渡部が退場するも、お構い無しに桃山大の攻撃は続く。20分にMF⑩西田隆紘、38分にFW⑪武田充展のゴールが決まり、終わってみれば8-1。稀に見るワンサイドゲームとなった。試合前は勝ち点で並んでいた両チームだったが、明暗がくっきり分かれる結果となってしまった。

(文:京都産業大学体育会本部編集局 谷口 達也)